

---

# 異世界トリップっぽい

藤袴 奥継

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界トリップっぽい

### 【Nコード】

N8585X

### 【作者名】

藤袴 奥継

### 【あらすじ】

なんだか、よくわからないうちに異世界に飛ばされ、迷宮にとばされ、モンスター倒したり、レベルアップしたりする話し。初投稿の練習用作品です、稚拙な文章ですが暇つぶしにでも、読んでいただけたら幸いです。

## 1話目っぽい

俺、如月士郎キサラギシロウは困惑していた。

ここは、どこだ？

確か俺は、会社で仕事して、電車で帰ってきて、家のドアを開いたんだよな…、いつから俺の家は荒野になったんだ？

玄関開けたら、荒野にポツーン、しかも今は、夜10時のはずなのに頭上には太陽が燦々と輝いていて、なんだかわけがわからない。

とりあえず、どっか人がいないか、交番がないか探そう…。

彷徨い歩く事、数時間、どうやら人のいる場所に出れたみたいだ。

俺、運がいい…と思いきや。

あきらかに、日本人に見えない人々が…、町並みも日本というよりは、中世ヨーロッパといった感じ、舗装されてない土そのままの道路に、風車のついたデッキカイ建物、道は馬車が行き交い、何より日本語で会話してないっぽい。

道を聞くとかできねええええ。

言葉通じねえ相手に話しかけるとかできねえええええ。

俺は人見知りやっちゅうねん。

途方にくれつつも、未練がましく町？の外周をフラフラ歩いていると石柱が3本程あった、文化遺産ぽい広場に出た。

正面と左右に石柱が建っていて、その中央に魔方陣ぽいものがある。

何だろうか？と、思って近づいて行って、魔方陣の上に乗ると、

ぶづううん

と音がして、景色が変わった。

???

混乱しつつも、あたりを見回す、前後、左右と煉瓦で造られた壁があり、その壁に剣が数本立てかけられている、壁と剣の他には、ドアがいくつもある。

ドアはあるけど、完全に密閉された空間だ。

あの魔方陣は転移装置か何かだったのだろうか？どっかの屋内にとばされたっばい、足元を見たが魔方陣っばいものはない、もどれなっばい。

まあ、戻れないものはしょうがない。

というか、最初の荒野にポツンの時点でもうアウトだしなあ。

なんとまあ、剣とか魔方阵とかがあつてことは、俺はファンタジー世界にでもやつて来たつてことなのかなあ？、とか考えてみる、よくある異世界トリップものみたいに召還されたりしたのかね？

とりあえず、考えていてもしょうがないので、壁に立て掛けてあつた剣を一本取り部屋を出てみた。

## 2話目っばい

部屋を出てみると、外にはモンスターっばいものがいた。

見た目はちよつと人間っばいが、肌が緑色で顔がのっぺりしている。体全体が鱗で覆われていて、正直キモイ、頭にはちゃんと髪の毛がふさふさと生えていて、生意気にもさらさら金髪ヘアである。

そいつがイキナリ襲い掛かってきた。

ブンッ！

と、と腕を振り回してきたのだが、こいつ、動きがメッサのろい。

難なくかわし、剣で斬りつける、こっちからみて左側の腹から右上の肩口まで剣をなぎ払う。

ザクッ！

つと、体に食い込んだ剣は意外と抵抗なくモンスターの体を切り裂いた。

上半身と下半身がさようならして、真っ二つになったモンスターは、そのまま影がうすくなり消え去った。

モンスターが消え去った後、なんとなく、体に力が溢れたように感じた。

経験値でも手に入れたのかな？

倒したモンスターは跡形もなく消え、経験値を手に入れると…、これでお金も落としてくれれば、まんまRPGなんだけどねえ。

あの後、ちらほらと見かけるモンスター剣で斬りつけつつ、フラフラと歩いていると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、モロにRPGですな、俺は異世界ファンタジー飛ばされたんじゃないかと、ゲームの世界に入ってしまったのだろうか…。

それにしても、レベルってなんだ？っていうか今、何レベルだ？とか、考えていたら、頭の中にステータス画面が浮かびあがってきた。

N A M E	シロウ
L V	2
H P	1 2 0
M P	1 4 0
S T	1 2 0
S T R	1 5 3
V I T	1 6 1
D E X	1 2 1

AGI	161
INT	170
RES	130

LV2か…、ステータスは軒並み100を超えているけど高いのだろうか？正直よくわからん。

まあ、これも今考えてもしょうがないんだろうなあ、そのうちわかるだろ、探索を続行じゃあ。

と再度探索を続けていると、前方にちよつと大きめの部屋が見えてきた。

大きめの部屋の中にはたくさんの緑色モンスターがいた。

さっきの奴だ…、あつ、目が合った、一斉にコツチに向かってきた。

とろい動きでコツチに向かって来る緑色モンスター、そして出入り口に引つ掛かった。

まあ、人ひとり通れるくらいの幅しかないから一斉に向かって来るとそつなるよね。

とりあえず、こいつらは動きが遅いだけでなく知能も低い事が判明した。

たぶん、カラスとか犬よりバカなんだろうなあ。

とりあえず出入り口で引つ掛かっている奴らを斬り倒し、部屋の中へと踊り入る。

囲まれて圧殺されるとヤバそうだが、こいつら動きがとろいし、頭も悪いから連携なんてしないだろうし、そうそう囲まれたりしないだろう。

斬る 切る KILL とブンブン剣をぶん回しモンスターを薙ぎ払う、数十体ほどモンスターを屠ると

【ピロリロリロリン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、本日2度目のレベルアップですな、ステータスは…、

N A M E	シロウ
L V	3
H P	1 2 1
M P	1 4 0
S T	1 2 1
S T R	1 5 4
V I T	1 6 2
D E X	1 2 2
A G I	1 6 3
I N T	1 7 1
R E S	1 3 1

ほとんど上がってないなあ、まあ、いいか…。

剣をもう一振りして、最後のモンスターを倒す、他のモンスター同様消えたと思つたら、なんか落ちてる。

ドロップアイテムって奴か。

落としたものは、何だか茶色くて丸っこい物体だった、というかパ  
ンに見える。

ちっさい、フランスパンといった感じだ。

グウーっ

腹が鳴った。

そういえば昼から何も食ってなかったなあ、腕時計を見ると3時  
を指し示している。

午前3時、腹も減るってもんです。

とりあえず、パンを食ってみる、固い、そして、まずい、だが、腹  
は満たされた。

腹が満たされたら、眠くなってきた。

考えてみたら、今日はハッスルしまくってた事になるからなあ、体  
が睡眠を求めているぜ。

だが、此处で寝るとさっきのモンスターに襲われそうだ。

最初の部屋に戻って、寝ることにしよう、ドアがついていたし何と  
かなるだろ。

最初の部屋に戻ってきた。

ドアを閉める、ついでに鍵がついていたので鍵も閉める、あの緑色  
モンスターに鍵開けのスキルがあるとは思えないので、これで大丈  
夫だろう。

床に横になって目をつむると、一気に睡魔が襲ってきた。

おやすみなさい。

### 3話目っぱい

翌日、目を覚ます。

一瞬どこにいるのかわからなかったが、煉瓦の壁を見て自分が何処にいるのか思い出す。

夢じゃなかったんだなあー。

のどが渴いたので、コップを持って蛇口をひねって水を出す、そしてコップいっぱい注がれた水を飲み干す、ゴクゴク、うまい。

…

蛇口？

よく考えると、蛇口から水が出るって、変だよな？

とりあえず部屋を探してみる。

壁が煉瓦で出来ている以外は、普通のマンションルームって感じだった。

今、俺がいるところは玄関兼キッチンといった感じだ、剣が立て掛けられていたのも玄関部分だな。

奥にもう一部屋あって、ベッドが備え付けられている、他には風呂とトイレがあった。

しかも、トイレは水洗、水はどこから来ているのだろうか？

風呂も蛇口をひねるとお湯が出る、シャワーもついてる、いたれりつくせりだな。

キッチンである、此処には流し台とガスコンロ、なべとフライパン、ナイフやコップに皿もある、調味料の類は置いてなかった。

とりあえず、いい拠点がゲットできたということで、食い扶持を稼ぎにいけますか！

ガチャ！

っと、ドアを開けると目の前に緑の物体が…

びっくりして、一步引いて部屋に戻る、と、緑モンスターは何事もなく通り過ぎていった。

どうも、部屋の中に入ると俺のことを認識できなくなる、というか、この部屋自体を認識できていないっぽい。

これは、実験してみる価値があるな。

ドアを開けて適当につつかえになる物を置いて、ドアを開けっ放しにしておく、んで、緑モンスターを部屋の前まで誘導してきて、サッ、と部屋に入る。

すると、俺が部屋に入った、とたん標的である俺の事を見失ったのか、フラフラとそのままだっかにいつてしまった。

ドアは開けっ放しで視線は通っているので、見えなくなったから見失ったという事は100%ありえない、部屋にはモンスターを寄せ付けない結界でもあるのだろうか？

何にせよ便利な事には間違いない、深く考えたら負けな気がするので、当初の予定通りにモンスターぬっ殺して食料ゲットするために出かけますか！

今日も緑色モンスターをボコにする、剣でザクザクと簡単に倒せる、そして、50匹に1匹くらいの割合で食い物をおとす。

パン2個としなびた野菜、カツチカチのチーズに塩をゲットLVも4に上がったし、腹も減ったし、部屋に帰って飯にすることにする。

NAME シロウ

LV 4

HP 123

MP 143

ST 124

STR 156

VIT 163

DEX 124

AGI 166  
INT 174  
RES 132

部屋に帰ってきた。

とりあえず、めしだめし、パンに軽く水を含ませしめらせる、その後、後に軽く火であぶる。

チーズもあぶって切れ目を入れたパンにぶっこむ、ついでに野菜もぶっこんで簡易ハンバーガーの出来上がりだ。

水を含ませ、軽くあぶったおかげでパンは若干やわらかくなっており、チーズの塩気と混ぜて、そこそこおいしく食べた。

もう一個のパンは、とりあえず置いておく。

俺の着ているサラリーマンスーツ（間接部はストレッチ素材でウオッシュャブル機能つき9万5千円）は意外と収納力があるが、服をパンパンにさせた状態で戦闘したくはないしな。

腹も膨れたし、もっかい緑モンスター狩りじゃー！

…

ザックザック、グシャー　　ザックザック、グシャー

延々と緑モンスターを倒していく。

ボグシャー　ボグシャー　ボグシャー　e n d l e s s

…飽きてきたので、帰る事にする。

今日の戦果は、パン8個、チーズ6個、萎びた野菜5個、塩少々、干し肉1切れ、んでLVが5になった。

N A M E　シロウ

L V　5

H P　1 2 4

M P　1 4 6

S T　1 2 7

S T R　1 5 8

V I T　1 6 5

D E X　1 2 6

A G I　1 6 9

I N T　1 7 5

R E S　1 3 3

今日はもう風呂に入って、簡易バーガー食って寝るか…。

#### 4話目っぽい

翌日…、ここに来てからもう3日目だな、とりあえず腹ごしらえして、今日も狩りに行くか…。

緑の奴らを倒しながらそこいらをウロウロする。

適当に歩いていると、ちよと雰囲気の違う部屋にでた。

部屋の中央には緑の奴と同じ見た目で体色が赤くなつた奴がいる、色違いだしボスモンスターだろうか？

警戒しながらも近づいていく、緑狩りはもう飽きたんじゃあー！もつと歯ごたえのある奴来ーい！

ある程度近づくと赤い奴が襲い掛かってきた。

が…、

こいつも、とろい、緑の奴より若干速い気もするが相手にならん。

ヒョイツ

と攻撃をかわし、サクサクと剣で斬る、袈裟懸けに斬りつけると一撃で死んだ。

「赤い奴弱っ！ボスじゃねえのかよ！」

赤い奴は、緑の奴同様霞となって消えていった。

すると、ピコーンと音がしたかと思うと

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

という、音声が頭の中に響いてきた。

そして、目の前に3つのアイテムが置かれていた。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、カッコいい、勇者とかがもってそう。

2つ目、革製のミニバッグ？腰につけるタイプのものっぽい、かわいい。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

…どれがいいのかわからん、適当でいいか、とりあえずなんか心惹かれたミニバッグをゲットする。

と、手をつけなかった剣と栄養ドリンクのビンが霞となって消えてしまった。

選ばなかったものは消えるのか…、それよりバックじゃ、革製ミニバッグを腰につける、ふむ、いい感じだ。

バックを付け終わると、また頭の中に音声が響いた。

【次のなかから、欲しい能力を選んでください】

【戦士の才能】

【解析】

【ドロップ率UP】

ふむ、この3つの内のどれかが得られるのか、まず1つ目はいらんな、モンスター簡単に倒せるし、三つ目はひかれるものがあるがどうせ良いアイテムは手に入らないだろうし、とすれば2つ目かな？解析って事はアイテムの効力とか、わかりそうだな、それに、なにより優先すべきものは情報だろう、せつかく手に入れたアイテムも使い道がわからないと、意味ないし、よし、これに決めた、手に入る能力を決めたことを意識するとまた音声が頭の中に響いた。

【ピロリン、シロウは【解析】の能力を手に入れた。】

能力を手に入れ終わると、目の前に微妙に光る魔方陣がでてきた。

これに乗れば次の階層に進めるといふ事だろう。

先に進む前に、ミニバッグの能力が気になるから解析を使ってみよう。

ジッと、ミニバッグを見る、これで使い方はあっていると、思う…、しばらく見つめてると情報が頭に浮かんで来た。

【【無限のポーチ】いくらでも、無限に物が入る、入ったものは垂

空間に保存され劣化しない】

おおっ、これは便利なものを手に入れたぞ、ようはドラちゃんのポケットみたいなものか、今まで持ちきれなくて放置していたものをコイツに入れられるし、なにより劣化しないっていうのは大きいなあ。

ためしにポケットにあった、パンを入れてみる。

明らかにパンの方が、ポーチの口より大きいが入るような気がする。

パンをポーチの入り口に近づけていくと、グニヨンと入り口が延びてパンがスツと吸い込まれた。

取り出すときはどうするんだろ？

手を入り口に近づけると、グニヨンと入り口がのびて、パンがするすると出てきた。

おお！こいつは、かなり便利だぞーあたりを引いたな！

とりあえず、持つてるアイテムを全部ポーチにぶっ込んだ。

これでよし！次の階層に進もう！

魔方阵に乗ると、一瞬、体全体が輝き、次の瞬間には別の場所に入った。

着いた場所は4畳くらいの空間で、左手にドア、前方に魔方阵があ

った。

この魔方陣に乗ると元の場所に戻れそうだな、乗ってみるか。

前方の魔方陣に乗ると、次の瞬間には見覚えのある場所、ゲートキパーを倒した場所にでた。

もっかい、ボス部屋の転移魔方陣に乗る。

さっきの4畳間に出た。

とりあえず階層を進んでも戻れる事が判明した、安心設計だな。

次に左手のドアを開けて外に出てみる、すると1番最初いた拠点部屋と同じような場所にでた。

トイレ付き、風呂付、キッチン付きの煉瓦部屋、違うのは今出てきた転移部屋が追加されている事くらいか…。

ああ、あと調理器具の類がおいてない…、最初の部屋からもってこないとなあ。

というわけで、最初の部屋から調理器具を持ってきた、【無限のポーチ】があるから楽だった。

それじゃあ、二つ目の階層の探索と行きますか！

毎度のごとくふらふらと出歩く。

2階層目には緑の奴の中に、ちらほらと赤い奴が見かけられた。

ふと、思いついて解析を使ってみる。

ジーツ

緑の奴は【養殖人間】というらしい、こいつらが養殖だとすると、俺は天然人間になるのだろうか？

まあ、そんなことは置いといて、【解析】の能力は相手のステータスも確認できるようだ。

緑の奴のステータスは

LV	1
HP	100
MP	10
ST	10
STR	100
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

こんな、感じだった。

固体によって多少能力が違うが、平均するところなる。

んで赤い奴の方かというと、名前は【養殖人間・亜種】でステータスは

LV	1
HP	120
MP	10
ST	10
STR	120
VIT	10
DEX	10
AGI	10
INT	10
RES	10

って感じだった。

俺のステータスと比べるとダイブ低い、メツチャ弱い、だから楽勝だったのか。

まあ、弱いとわかったら遠慮はいらねえ毎度のようにザクザク行きますか！

ザック ザック ザック endless

赤い奴も何十匹と倒すとアイテムをドロップした、赤い奴のドロップアイテムはトイレットペーパーとかティッシュペーパーとか生活雑貨だった。

今日の成果

LV5                    LV7

NAME                  シロウ

LV                      7

HP                      128

MP                      150

ST                      130

STR                    162

VIT                    167

DEX                    131

AGI                    174

INT                    177

RES                    135

生活雑貨多数、食料多数ゲット。

ある程度探索と、赤い奴狩りを終えたので、今日は探索を終わって風呂は入ってめし食って寝る事にした。

おやすみなさい。

#### 4話目っぽい(後書き)

投稿して改めてわかる、自分の文章力のなさ  
精進せねば！

## 5 話目っばい(前書き)

モンスター解析時のステータスを変更しました。

思いつきで書いてるので、後から、ちよくちよく細かいところを変更したりします。

## 5 話目っぱい

今日も今日とて探索じゃあ！

と、モンスターを倒しつつ探索を続行すると、また雰囲気の違い部屋に出た、通称ボス部屋（俺命名）

中央にいるのは、青い奴だ。

解析、解析。

【養殖人間・変種】  
ようしよくにんげん へんしゆ

LV	3
HP	1 2 3
MP	1 1
ST	2 3
STR	1 2 3
VIT	1 1
DEX	2 2
AGI	2 2
INT	2 0
RES	1 2

こいつも雑魚だな、サクッと殺っちまうか！

サクツと殺っちゃいました、横薙ぎ一閃です。

そしてまた、脳内にピコーンと音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしか…、最初のは初回ボーナスみたいなものだったのかな？

能力が得られるだけでも大きいし、問題ないけどね。

今回得られる能力は

【戦士の才能】

【共通語／会話・読み書き】

【ドロップ率UP】

という、ラインナップだ。

ん〜、この中だと…、とりあえず、上の二つはないなあ、【戦士の才能】は前回と同じ理由でなしだし、会話は話す相手がいない。

こじは、【ドロップ率UP】にするしかないかあ。

というわけで【ドロップ率UP】の能力をゲットする事にし

た。

【ピロリン、シロウは【ドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

魔方陣に乗って次の階層に行く。

前回とおなじく4畳間にでた、左手にドア、右手にはエレベーターのっぽいもの、前方には魔方陣。

エレベーターっぽいものが、新しく追加された施設かな？

ジーツ

と見て、【解析】を発動する。

ふむふむ、どうやら、行きたい階層の番号を入れて、ボタンを押すとその階層の拠点部屋に連れてってくれるものようだ。

ただし、自分が行った事のある階層にしか行けないし、この階層より前の階層にはいけないらしい、と、言う事は必然的に今は使えない代物しろものだな。

まあ、入力しなければならぬ数値がアラビア数字じゃないから、どっちみち使えないがな！

先の階層に進んでいけば、使う機会もあるかもなあ、次の能力取得では共通語の取得を考えたほうがいいのかもれない。

部屋に入るといっご前の階層同様の部屋だった、ついでに調理器具

の類がない、取りに行かねば…。

赤い奴や緑の奴をぬっ殺しつつ、調理器具をとりに戻る。

【ドロップ率UP】の恩恵か、倒せば必ずアイテムを落とすようになった、こいつらの落とすものは腐るほどもってるし、あんまりいらないけど。

さて、3階層目をかろく探索して今日の探索はおしまいにするか…。

という事で毎度のごとくフラフラと出歩く、3階層目には、青い奴、赤い奴、緑の奴と3色の養殖人間が出てきた。

どうも、ボス部屋にいた奴が次の階層から通常モンスターとして出てくるみたいだな…。

とりあえず、青い奴が何を落とすか知りたいな…、2階層目のボスだった、【養殖人間・変種】はアイテムをドロップしなかったし、ボスはアイテムを落とさない仕様なのだろうか。

というわけで、青い奴をぬっ殺した結果ドロップアイテムが服の類だと判明した。

シャツとかパンツとか下着の類も落としたり、そしてサイズは何故かジャストフィットだった。

倒した人間のサイズになるのだろうか？まあ、何にせよありがたい事だ、ありがたい事だから深く考えない事にした。

それにしても、これでやっとな着替えられる、今までずっと同じ服で過ごしていたよ、バッチイ。

今着ている服は風呂場で洗濯しておこう、本当はお日様の下で乾かしたいんだけど、ここじゃ無理だし部屋干しするしかないか…、部屋干しするとちょっと臭ツたりすんだよなあ。

Orz。

風呂入って、シャツとパンツを着替えて、身も心も衣ころももサツパリした今日は、ぐっすり眠れた、いつもぐっすり寝ているような気がするが。

## 6話目っぽい

んっ、いい朝だ！

今日で異世界に飛ばされてから…5日目だな…、たぶん…、早くも曜日の感覚がなくなってきたぞ。

そついやあ、元の世界で俺はどういう扱いになってるんだろ？ 搜索願いつか出されてるんだろっか？

親父とお袋は心配だが…、まあ、まだ元気だったし、姉ちゃんもいるし、俺の貯金も結構あったし、そいつを使えば老後の生活は問題ないだろ、うん。

ああ、やめやめ、こんなん考えても、何にもならん、忘れる忘れる、はい！ 忘れた！。

とりあえず、今日は服の洗濯してから、探索に向かうかな…。

メシを食った後に昨日の残り湯で服を洗う、別にガス水道代を払ってるわけじゃないので普通にお湯をだしてもいいんだけど、勿体無いじゃん？

んで、洗った後に服をよくしぼる、その絞った服はいったん置いておいて、煉瓦の隙間にナイフを刺して固定する、コイツを二箇所つ

くってそのふたつのナイフの柄にヒモを結んでピーンと張る。

そのヒモに服を干す、なんでこんな事をしているかというところ、こうしないと服を干す場所がないのだ、赤い奴が物干し竿とか洗濯バサミとかはドロップしてくれただけ、流石に物干し竿置く台まではドロップしてくれなかったのだよ。

まあ、とりあえず、そうやって服を干す、干してる場所はベッドルームだ。

どうせ、ベッドルームは夜寝るときまで使わないので、昼にパンツが上のほうでピラピラしても気にならない、メシはキッチンのほうで食うし。

んで、洗濯したスーツに変わって、【養殖人間・変種】（通称青い奴）が落とした服に着替える。

着替えた服は上は綿シャツ＋厚手の綿のジャケット、下はこれまた厚手のズボンで色はグレー、生地はデニムっぽい、足は膝元まである黒い革のブーツ、一言で言うつと冒険者ルック？

前のスーツより若干動きづらいが、多少の事では破れない丈夫さに安心感がある。

さて服も着替えて心機一転、探索じゃあ！心機一転してるのにやることはいつもと同じだがなあ！

青い奴やら赤い奴やら緑な奴やら、うじゃうじゃいる。

こいつらを、毎度のごとくザクザク倒しどっちゃりと服やら生活用

品やら食料やらを手に入れ、一旦拠点に帰ってメシを食う。

LVも8に上がった。

NAME シロウ

LV 8

HP 129

MP 152

ST 132

STR 163

VIT 168

DEX 133

AGI 176

INT 178

RES 135

昼メシを食った後また探索を続ける。

またまた、どつちやりとアイテムを稼げたが、ボス部屋は見つからなかった。

家に帰ってきて、干した洗濯物を取り込む、綺麗にたたんで【無限のポーチ】にしまう。

替えの服は大量にあるから、服は洗濯しないで、一回使うごとに捨ててもいいかなあという気もするが、やっぱり勿体無いのでちゃんと洗う事にする。

さて、今日は風呂入って、メシを食って寝るか…。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8585x/>

---

異世界トリップっばい

2011年10月26日01時00分発行